

三重県農業に対し農業大学校が果たす役割

農大の法的位置づけ

- 農業改良助長法…第7条第1項第5号で農業者研修教育施設として、農業大学校を位置付け
- 協同農業普及事業交付金交付要綱…農業大学校の運営費の一部を交付
- 三重県農業大学校条例…農業大学校の設置及び内容等を規定

現況

農産物の価格の低迷による農業所得の減少や農業者の高齢化などにより、食を担う農業の従事者が急速に減少している中、意欲ある農業者が中核を担う農業を実現することが、従来にも増して重要な課題となっており、教育・研修機関としての農業大学校の役割は高まってきている。

高まる今日的意義
農業就業人口の急激な
高齢化・減少

- 平均年齢
平成12年 62.9歳
平成22年 69.3歳
- 就業人口
平成12年 69,615人
平成22年 42,624人

農大の役割

即戦力となる農業者の育成と本県農業の中核を担う農業経営者の輩出

農大の教育内容

- 新たに農業を目指す者に対して、高度な農業技術や経営について講義及び実習を組み合わせた実践教育を行う
2年課程定員30名、1年課程定員10名
- 新規就農者等が基礎知識の習得及びスキルアップをめざす短期研修
定員合計90名

実績

昭和45年に農業経営大学校としてスタートして以来、約1,000名の卒業者を輩出し、うち376名が地域農業の担い手として活躍するとともに、在校生の研修受入や新たに農業を目指す者への就労の場の提供など、本県農業を支える中核的な農業経営者を輩出する機関としての役割を担っている。

時代のニーズに応じた見直し

- ・水田作コースの新設
兼業農家主体の構造から、大規模経営体への集約が求められる時代背景をうけて、大規模水田経営の担い手を育成するために新設
- ・1年課程の新設
社会人からの就農希望者が増加してきたことを受けて新設 など

就農率の向上

1年課程の就農率は
新設後平均78%

MIE AGRICULTURAL COLLEGE

設置目的

- 1 農業に関する高度な技術及び経営について実践的な教育により、優れた経営者等を養成します。
- 2 農林漁業者、農業指導者等に必要な研修を行います。

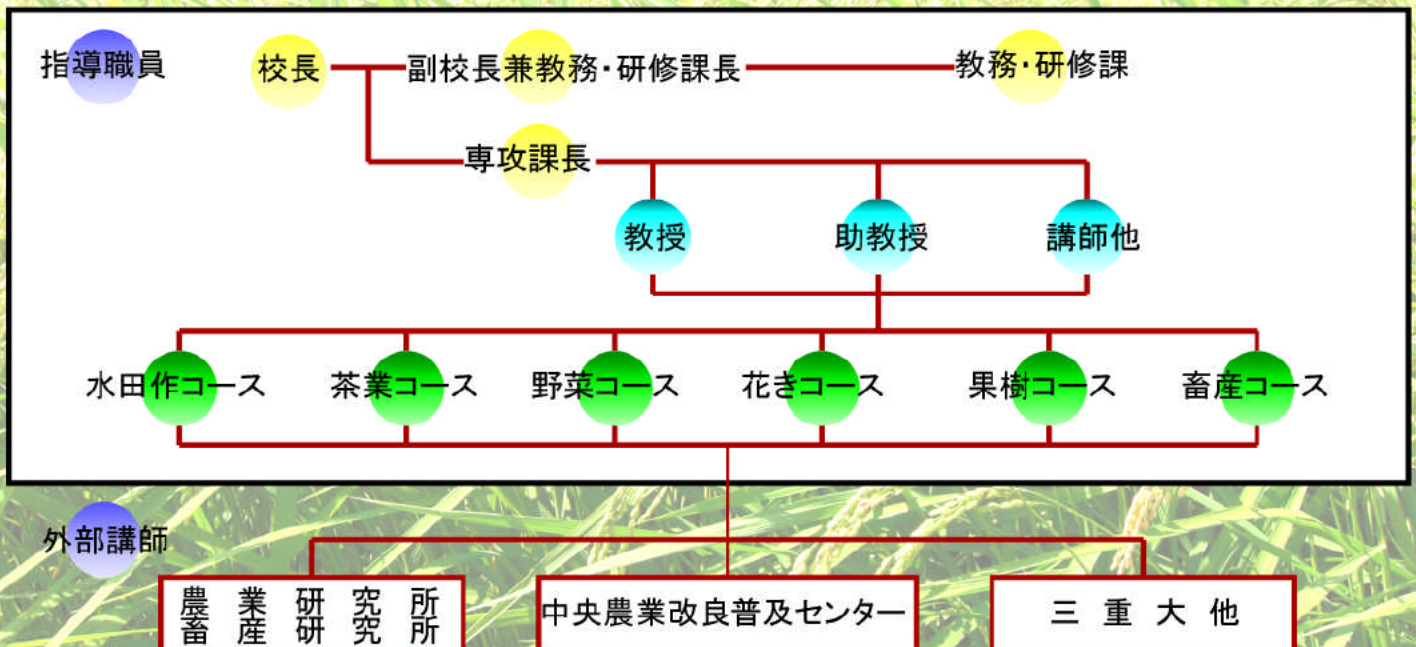


沿革

- 昭和11年3月/三重県農林勸修場として飯南郡粥見町に設置される。
昭和25年4月/三重県農業経営伝習農場と改称し、一志郡豊地村に移転される。
昭和36年4月/三重県農業経営研修所と改称し、鈴鹿市石薬師町に移転される。
昭和45年4月/農業経営研修所を現在地に移転新築して、三重県農業経営大学校と改称し、農業技術センターを創設される。
昭和53年4月/三重県農業経営大学校が2年制となる。
昭和61年4月/三重県農業大学校を設置し、短大2卒に準じた資格が付与される。
平成12年4月/条例・規則改正により、1年課程及び水田作コースが新設される。
平成18年4月/専修学校へ移行される。



組織及び指導体制



NIE AGRICULTURAL COLLEGE

教育

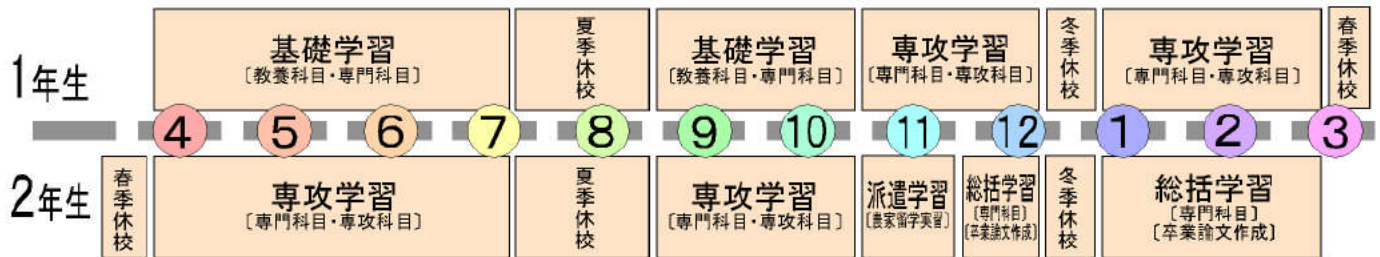
教育目標

- 1 農業技術の高度化及び経営の革新に対応できる技術能力、経営判断等を養成する。
- 2 明日の農業を拓く、創造力・実践力・豊かな人材を養成する。



【養成科2年課程】

- 入校資格 高等学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力を有すると知事が認めた者。
- 定員 30名
- 専攻コース 水田作コース、茶業コース、野菜コース、花きコース、果樹コース、畜産コース
- 教育体系



■教育科目

※履修科目については一部変更することがある。

		履修科目
教養科目 (全コース共通)		[必須科目] 文学(文学表現)、くらしと法律、くらしと経済、統計学、情報処理、英語(実用英会話)、農業基礎、現代社会と文化、体育
専門科目 (全コース共通)		[必須科目] 農業経営、農業簿記、農政学、農産物流通、作物概論、園芸概論、畜産概論、植物生理、植物育種生物学、作物保護、土壌肥料、環境保全と農業、農業気象学、農業機械論、大型特殊免許 [選択科目・1科目以上を選択] 食品科学、有機農業、園芸福祉 [選択科目・2科目以上を選択] 農産加工、土壌分析、コンピュータ演習、バイオテクノロジー、フラワーデザイン、農業機械整備 [選択科目・2科目以上を選択] 大型特殊免許(けん引)、フォークリフト運転技能、毒物・劇物、危険物、簿記会計、ガス溶接、営農指導員
専攻科目	水田作コース	稲作基本栽培、麦・大豆栽培、露地野菜栽培、水稲低コスト栽培、稲作機械施設、稲作論、稲作経営
	茶業コース	茶栽培各論Ⅰ、茶栽培各論Ⅱ、茶利用加工各論Ⅰ、茶利用加工各論Ⅱ
	野菜コース	果菜類Ⅰ、果菜類Ⅱ、葉茎菜類、根菜・いも類
	花きコース	切花、鉢花、花木・造園、観葉植物、洋らん
	果樹コース	果樹総論、果樹各論Ⅰ、果樹各論Ⅱ
	畜産コース	家畜生理、家畜衛生、飼養管理、家畜繁殖、飼料学、家畜栄養、家畜育種
	全コース共通	専攻実習、産地実習、農家実習、専攻実験、課題解決実習、卒業論文
特別活動	学校行事、自治会活動	

NIE AGRICULTURAL COLLEGE

免許・資格の取得

- ① 卒業者は、(社)国際農業者交流協会が行う、国外留学研修の取扱並びに就農支援資金等の貸付を受けることができます。
- ② 在学中に農業経営に必要な次の資格免許を取得する機会が与えられます。

- 大型特殊免許(農耕用)
- けん引免許(農耕用)
- 毒物劇物取扱者
 - 危険物取扱者(乙種第4類)
 - ボイラー技士免許(2級)
 - 溶接技能士(ガス・アーク)
 - フォークリフト運転技能
- 農協営農指導員



【養成科1年課程】

- 入校資格 就農への意欲が高く、将来農業経営基盤強化促進法第12条第1項の認定を受けようとする者で60歳以下の者
- 定員 10名
- 専攻コース 水田作コース、茶業コース、野菜コース、花きコース、果樹コース、畜産コース
- 教育体系



■教育科目

※履修科目については一部変更することがある。

		履修科目
専門科目 (全コース共通)		<p>[必須科目] 農業基礎、農業経営、農業簿記、農産物流通、作物保護、土壌肥料、大型特殊免許</p> <p>[選択科目・4科目以上を選択] 食品科学、有機農業、園芸福祉、農産加工、土壌分析、コンピュータ演習、バイオテクノロジー、フラワーデザイン、農業機械整備、大型特殊免許(けん引)、フォークリフト運転技能、毒物・劇物、危険物、簿記会計、ガス溶接</p>
専攻科目	水田作コース	稲作基本栽培、麦・大豆栽培、露地野菜栽培、水稲低コスト栽培、稲作機械施設、稲作論、稲作経営
	茶業コース	茶栽培各論Ⅰ、茶栽培各論Ⅱ、茶利用加工各論Ⅰ、茶利用加工各論Ⅱ
	野菜コース	果菜類Ⅰ、果菜類Ⅱ、葉茎菜類、根菜・いも類
	花きコース	切花、鉢花、花木・造園、観葉植物、洋らん
	果樹コース	果樹総論、果樹各論Ⅰ、果樹各論Ⅱ
	畜産コース	家畜生理、家畜衛生、飼養管理、家畜繁殖、飼料学、家畜栄養、家畜育種
	全コース共通	専攻実習、産地実習、農家実習、専攻実験、課題解決実習、課題解決実習
特別活動	学校行事、自治会活動	